

視覚障害者の雇用と生活支援における要望書

令和4年 11 月 日

「あうわ」視覚障害者の働くを考える会

代表 林 由美子

私たち「あうわ」視覚障害者の働くを考える会は、金沢市の市民協働団体として障害があっても就労に就き、人の役に立つことで生きがいを感じることができる“まちづくり”を目指して活動を続け、6年目を迎えました。

この間、金沢市における視覚障害者の就労の課題について行政機関の皆様とともに課題認識の共有に取り組んでまいりました。特に、行政の関連部署の皆様と対話を重ねる中で、少しずつ議論が深まっていることを実感しております。

本年は、視覚障害者の就労の事例を紹介し、今後の支援にどのようにして繋ぐべきかを考える座談会として開催して参ります。

明年は石川県において第 38 回国民文化祭と第 23 回全国障害者芸術文化祭が開催されます。また、これらに先立ち第 31 回視覚障害者リハビリテーション研究発表大会も金沢市において開催されます。

これを機会に、視覚障害者の自立に向けた支援が、さらに拡大することを願い、本年の取り組みと現状を踏まえ、以下、要望します。

記

医療・福祉の連携

- 一、眼科医から視覚障害者に対して障害者手帳の申請の案内を徹底すること。
- 一、ビジョンネット石川の周知と活用促進を図ること。
- 一、地域生活支援および生活訓練・歩行訓練の充実を図ること。特に、「中途視覚障害者緊急生活訓練事業」の早急な実施を求める。

生活・情報支援の強化

- 一、移動支援・同行援護の拡充を図ること。
- 一、金沢市のLINEポッドに障害者支援を開設すること。
- 一、IT技術の革新を踏まえ、その技術の利用促進を図ること。

職業訓練、就労支援の充実

- 一、視覚に障害があっても受けられる職業訓練の体制を確立すること。
- 一、視覚障害者が金沢市職員として働ける環境づくりを行い、視覚障害者の就労のロールモデルを作ること。
- 一、「重度障害者等に対する通勤や職場等における支援」を早期に実施すること。
- 一、ヘルスキーパーの採用企業を増やすための周知活動を行うこと。

以上